



旅してきました！ ～宮崎編～

コロナ明けという感触ではあるものの、海外からの観光客は今一ですね。これは大陸から近い九州方面への旅は特にチャンスと言えましょう。是非とも今のうちに西へお出かけください。

さて阿蘇山の地図を見ていると、ふっと高千穂に近いことを発見しました。高千穂と言えば天孫降臨の地、またまた証拠にも無く神様魂に火が付きました。高千穂という場所は宮崎県ですが、熊本空港から入った方が断然近いようです。高千穂地区は、阿蘇山の噴火からの隆起した崖で神秘的な渓谷があり、さらに神話の故郷としても観光資源がたくさんあります。では、考察と報告をしてゆきましょう。

考察1.

高千穂神社の『神楽』は、予約制ですが、この田舎で夜のアクティビティーとして唯一のものです。実は3連休中の旅にもかかわらず、ボ～っとして予約をしておらず、見れませんでした。これは圧倒的に評判が良いもので、気づくのに遅れたわけです。ダメダメですね、私…。旅をするのは、やはり早々に下調べが重要と言うものです。当日券もありましたが、夕食時に重なるために断念したわけです。こうして今一度の高千穂入りを余儀なくされております。



考察2.

天の岩戸神社というのは企画力が抜群です。乱暴者の弟・須佐能が暴れたので、スネて天照大神は天岩戸にすっこんで、世の中が真っ暗になった。困った神々が岩戸川のほとりに集まって相談して、宴会を繰り広げて『なんでやねん？』っと思ってひょっこり顔を出した天照をひっこ抜いて、結果、世の中に光が差したという神話。相当に有名な話ですが、『我こそが天の岩戸だ！』という場所はたくさんありますね。しかし、高千穂が断然に全国区です。この天の岩戸神社ですが、旧社格も村社くらいで高くはないのですが、何せ川岸に洞穴が都合よくもあり、しかも神々が相談した穴も用意されていることにアドバンテージがありますね。しかもですよ…、社務所前に集合していれば、神職が登場して15分くらいの軽いツアーにタダで参加できます。このツアーに乗らなきゃ、実は天の岩戸は全く観られないという演出になっているわけです。写真は撮れませんが、どうかあ～ん！と正面に見えます。他所からは見せないようにできており、仕組みだな感が満載です。神職ツアーは必須です。

考察3.

さて、食問題です。高千穂という狭い町で高級宿は2件しかないようですが、日本旅館では、しなっとした若手の女将が出てきて挨拶してくれるのは心に染みますね。日本料理で進めてくれるのですが、いきなりキャビア（宮崎で養殖場があるかららしい）が出てくるのは今一でした、あんなもん美味しいもんじゃないし…。いきなりコケたとはいえ、その後はいい感じで食事は進み、いよいよ高千穂牛の登場です。今年は鹿児島にNO.1の座を奪われたとはいえ、宮崎の牛は日本一！その中でも高千穂牛は更にブランディングされています。ミネラル豊富な水、ストレスなき生活で牛さんもスクスクです。ところが赤身なのにジューシーで凄い。サシが少なくて感心しきりでした。ただねえ、ちょっとポーションがデカすぎやあしませんか？シェフ…。ご自慢の牛でしようが、その後に酔のものを挟んで天ぷらですよ、多いうてば…。この辺りにちよと田舎のレベル感が出てしまいました、残念。。



ということで、阿蘇～高千穂の旅報告でしたが、これはお勧めいたします。時間がなくて駆け足ツアーでしたので、再挑戦するつもりです。（筆：健康法師）

今、『カプセルトイ』が熱い！

コロナ禍ですっかり様変わりしてしまった心齋橋筋商店街。久々に歩いてみると今までにない雰囲気のお店が…。なんと、「ガチャポン」と呼ばれていた『カプセルトイ』の専門店です。

スーパーのちょっとしたスペースに置かれていることでお馴染みの『カプセルトイ』。以前は関西空港で両替に余った小銭を使うということで、訪日外国人に人気を博していたようです。しかし、外国人観光客もいなくなったし、しかも子供なんか歩いてないはずだし、あまつさえ賃料も高かろうにの心齋橋…。採算は合うのかいな？と心配になります…。

実はカプセルトイはコロナ禍真っ只中の2020年ごろから大流行中なのだそう。空いたテナントスペースに大型店が参入し（げえ～、そんなにアイテムあるんですか?!）非対面で手軽に楽しめる、むしろコロナ禍こそがブームの火付け役となっていました。

平日の午前中だというのに10人ほどのお客さんがいて、圧倒的に周りの店舗よりも入っています。取り扱いラインナップも、アニメなどのキャラクター商品ばかりかと思いきや、虫や鳥、古代生物といった生き物や、ミニチュアの園芸道具といった日常の一部を切り取ったようなフィギュアなど、意外性のあるどこかニッチなものがズラリ。

@200円から@500円程度ながらもそのクオリティの高さには驚かされます。知らない間にもあれもこれもやりたくてしまうので、ハマってしまうと数千円使ってしまうそうです。今や大人がはまるってわけです…。

店頭には店員さんはおらず、接客の人員費いらず。商品ラインナップは次から次へと新しいものが出るのでリピートしていきたくなり、お客さんが自分で気に入ったアイテムをSNSにアップしてそれが広告がわりになるのでコストをかけずに集客…。なかなかよくできたスキームですね。京都のイオンモールがリニューアルでバンダイさんが2000

台のガチャポンを設置とか…。すごいなあ。



私が気になって思わずやってしまったのは、牛乳石鹸さんの企業のコラボ商品でした。出てきたミニチュアのグッズは可愛く、それでしか手に入らないのでリピートしたくなる気持ちもわかります。レトロ感にはめられましたねえ。こうしてどんどんと時代は進行しているようです…。(筆：綾部)

『香りを聞く』

遺伝性の片頭痛を何十年も患っているため、頭痛を和らげるお香があると聞き、『香道』体験に行ってみました。軽い気持ちで行ったのですが「アロマを嗅ぐ」とは違い、奥が深い。ハマってしまい、本格的なお稽古開始を検討中です。

最も興味深かったのは、なぜ香りを「嗅ぐ」ではなく「聞く」というのか。香道の世界では、天然香木には魂が宿っていると考えられているため、くんくんと匂いを嗅ぐのは無粋とされ、心から香りと向き合うという意味で「聞く」と表現されているそうです。

さすが、奈良時代から続く歴史ある芸道ですね。品格を感じます。

また、聞香をすると、脳波はクラシック音楽と同じ波動を示し、一瞬で脳が元気を取り戻すとか。嗅覚は、五感の中でも原始的な感覚器であり、視聴覚の情報とは違って、大脳辺縁系にダイレクトに届くため香りを嗅ぐと、何の香りかを判断するよりも先に感情が動くとのこと。確かに、理由は分からないけれど、懐かしさを感じる香りがありますよね。その後、脳の視床下部に伝わり、自律神経系・ホルモン系・免疫系に影響を与えることで、心身のバランスを整えます。

ただし、香道に使われる香木の「沈香（じんこう）」は、木が樹脂とともに朽ちて土の中で熟成されたもので、日本では採れず、人口栽培ができない非常に希少な木材。そのため、上質の香木は100～150年以上かけて香木として使えるようになるそうです。最も貴重な香木「伽羅」1gの値段は、金1gの10倍相当の50万円近く。

それでも、日本の伝統文化のひとつですから、優雅に香りを楽しみたいと思われる方、ご安心ください。お稽古であれば1回あたり5000円程度で平安貴族の気分を味わえます。頭痛の鎮静効果は不明ですが、香木の魂と会話したとの満足感で優雅な気持ちになれること…。保証いたします。(筆：三上)



編集後記

皆様、今回の通信はいかがでしたでしょうか。カプセルトイは私もハマってしまっていて、専門店を見つけたら、一通りラインナップをチェックするようにしています。人気のものはすぐに売切れてしまうこともあるので、一期一会を楽しんでいます。黒木

